

エコロジカルな回心 —すべてのいのちを守るため—

川内修道院

毎年9月1日～10月4日は、「すべてのいのちを守るための月間」として、日本の教会では、インテグラル・エコロジー（総合的なエコロジー）の視点で環境について祈り、考え、行動するよう呼びかけています。2019年に教皇フランシスコが訪日された際に強調されたように、私たち一人ひとりのエコロジカルな回心が求められています。「すべてのいのちを守るため」に私たちができることは何か、何をしなければならぬか、様々な課題が投げかけられていることを日々に留めながら過ごしています。今自分にできる「すべてのいのちを守る」行いは何か、各自が意識して取り組んでいることを報告したいと思います。

①マイバッグ・マイボトルを持ち歩く

マイバッグ・マイボトルを持ち歩くことで不要な出費（レジ袋・ペットボトルなど）を節約し、プラスチックごみを減らすことにもなります。

②使わない電化製品のコンセントを抜く

コンセントにプラグが刺さっている状態では、電化製品を使っていない間も自動的に電力を消費します。ついつい便利良さからコンセントにプラグを差し込んだままにしてしまいがちです。電化製品を使用しない間は、コンセントからプラグを抜くか、個別に電源の入切ができる電源タップを活用するように努力しています。

③食べ物は捨てずに使い切る

諸事情で、予定された食事が不要になることもあり、少しずつ冷蔵庫に保存されていっています。この状態を防ぐため、次回注文時には食数を減らしたり、また、幼稚園のお弁当に利用したりと、残った食料をできるだけ使うようにしています。また、賞味期限切れの食品を廃棄することのないように買い物時には必要な量を必要な時にだけ購入するようにしています。

④水は出しっぱなしにはせず止める

水は、作られたり使われたりする際にたくさんのエネルギーが消費されると言われています。お風呂で頭や体を洗う時は、シャワーの水は細目に止めるようにしたり、歯磨きや食器洗いの際も水を出しっぱなしにしないように気をつけています。

⑤その他

- ・エレベーターではなく階段を使うようにしている（健康のためにも）
- ・ティッシュや洗剤など不必要に使用しないようにする
- ・敷地内の美化に努める（ゴミ捨て場の清掃など）
- ・食卓に供されたもの、残飯や汁気もなるべく少なくして、



食べたスイカの種から実がなりました！

水に流さないように心がける

- ・リサイクルできるものを意識し、行動する
- ・果物の皮など自然に返し、土に負をかけず、元気になるよう手間をかけて、花、野菜を育てる 廃棄された種から新たな命を育てる
- ・今、院内に残っている物品を有効活用する
- ・歯磨き粉が少なくなったら、チューブを切って中身をつけるようにしている
- ・古くなったタオルや衣類は、切って雑巾に使ってから捨てる
- ・ストッキングの使い古しを、床拭きとして使っている
- ・ゼリーのカップを、保育で再利用している
- ・コピー用紙の再利用、ファイルを裏返して再利用している
- ・腐葉土作り・花壇の手入れを行なう
- ・便座の蓋を閉める
- ・園庭に迷い込んだウサギ（2羽）や猫の保護など



保護されたウサギ

「私たちの家である地球」を地球温暖化、水資源の危機、食糧問題、人口問題や貧困、エネルギー問題、ゴミ問題、森林破壊などから守らなければなりません。

今年の「すべてのいのちを守るための月間」のパンフレットには次のように記してありました。

「わたしたちが、被造物とそのいのちを大切にしていない状況には どのようなものがあるでしょうか。環境的、経済的、社会的な側面など、多角的に振り返ってみましょう。」

『すべてのいのちを守るために』『よりよい未来をひらくために』どのような役割があなたに与えられているでしょうか。」

この言葉を振り返りと祈りのヒントにして、これからも共同体で個人で「エコロジカルな回心」を意識して過ごしていきたいと思います。